

## 埼玉県クイーンズランド州スカラシップレポート



高校生相互派遣事業

派遣先:オーストラリア・クイーンズランド州

派遣期間:2023年7月23日~8月10日

増田 くる実

・はじめに

私は、高校生最後の夏休みにこのプログラムを通して、生涯忘れることのないであろう、かけがえのない冒険をしました。その話を少しでも紹介できたらと思います。

・クイーンズランド州について

私が派遣させていただいた、オーストラリア・クイーンズランド州は自然豊かで、時の流れがゆったりと感じられるところでした。高い建物や電線も無く、ただただ広大な緑と青い空と海が広がっています。最初に私が驚いたことは、街にゴミが一つも落ちていなかったことです。さらに、海には犬用エチケット袋とゴミ箱が設置されていて自由に袋をもらえて捨てられるようになっていました。あとからオーストラリアの友達に聞いたのですが、「どの通りにも公共のゴミ箱があり、町の人達は、ゴミをゴミ箱に入れることが徹底

されている。」ということでした。また、毎月の第一日曜日には“オーストラリアを綺麗にする日”という掃除運動が行われているそうです。地域全体の環境への意識の高さに驚きました。他にも、Yeppoon 市長に挨拶のため市役所に訪れた際に市長からウェルカムパックとして、竹で作られた歯ブラシやマイストローなどを頂き、市役所が率先的に環境問題に目を向けていることも学ぶことができました。クイーンズランドの7月・8月は季節的には冬ですが、気温は 20℃前後と、とても過ごしやすい気温でサーフィンやサーフボードを楽しむことができました。そして、最終日にはオーストラリアの先住民アボリジニについても、施設で実物やレプリカなどを見て勉強させていただきました。

#### ・学校生活について

2週間の間、Yeppoon State High School に通学させていただきました。毎日、日替わりでバディが付き添ってくれて通常のクラスに参加しました。授業は、生徒と先生の会話を中心に展開されていてアクティブラーニングが基本となっていました。



た。生徒が学ぶということに意欲的だからできる授業展開の仕方だなと感じました。学校には牧場があり、牛や鶏などと触れ合うこともできました。また、Yeppoon High の他にも女学校の Ursula's school や、Emu Park School という小学校にもお邪魔しました。どの学校の生徒も素直でとても優しく、積極的に声をかけてくれて、たくさんの

友達ができました。オーストラリアと日本の文化の違いなどを情報交換し合い、学ぶことができました。

Yeppoon High でできた友達とはとても仲良くなり、放課後にショッピングに行くと、friendship whistle といってお揃いの笛を買いました。今でも彼らとは連絡を取っています。また、本プログラムの相互派遣の最終審査に残っていた友達の日本語原稿を私も一緒に考えたところ、友達は合格し、来日が決定しました。日本で会う約束もしています。

#### ・ホームステイについて

私はこの夏、オーストラリアに家族が来ました。ホームステイなので当たり前だと思われるかもしれないで



すが、今まで赤の他人だった人たちがかけがえのない存在となりました。私のホストファミリーは夫婦と犬一匹でした。何もかもが初めてで不安だらけな私を三人はあたたかく迎え入れ、たくさんの素敵な思い出を一緒に作ってくれました。クイーンズランドの有名な場所をたくさん案内してくれたこと、娘さん一家と高級料理店に連れて行ってくれたこと、一緒にオムライスを作ったこと、お孫さんの髪の毛を結んであげたこと、毎日の送り迎えやソファで映画を観る時間、お互いの国の早口言葉で笑いあった時間、唐突に我儘を言って連れて行ってもらった海、不安を感じた時に肩を抱いて話をしてくれたこ

と、いつでも帰ってきなさいと言われたことなど。全てが大切に愛おしい瞬間です。心の底から彼らがホストファミリーでよかったと思っています。私のホストマザーには口癖がありました。“Don't worry. No problem” “All good” 私の心をたくさん救ってくれたこの言葉は今もなお脳裏に焼き付いています。きっとこの先の人生、どんな困難も乗り越えられるだろう、そんな言葉をもらいました。

#### ・現地での埼玉県の紹介

埼玉県の東部地区の魅力について、自作のパワーポイントを用いて現地の学生たちに紹介しました。特産品である草加せんべいの紹介や試食、日本一大きいショッピングモールである越谷レイクタウンなどについてプレゼンテーションを行いました。みんな集中して聞いてくれて、埼玉県に行ってみたいと言ってもらえました。また、クイーンズランド州と友好都市である埼玉県から派遣された留学生として、“異文化交流の架け橋”と現地の新聞に掲載されました。

#### ・まとめ

オーストラリアでの一番の発見は“愛”だと思います。家族や友人、先生やすれ違いう人、この2週間たくさんの愛情を感じました。英語で話すことに緊張していた私に、笑顔で優しくたまにジョークも入れながら話してくれたり、目が合うと微笑んでくれたり、些細なこと一つ一つが安心材料となっていました。肌や目の色、話す言語も違うこと、海を越えなくては会えないこと、何もかもが違って見えるけれども愛があれば友達になれる、家

族になれる。漠然としていて言葉で表すのは難しいですが、愛情の奥深さを知ることが出来ました。本プログラムに計り知れないほどの方々のご協力があったことも、愛情の一部と考えています。今回はこのような機会をいただけたことに、国際課の皆様をはじめ、このプログラムと私たちに関係してくださった皆様に感謝申し上げます。

